絵：アキノイサム＋ウピンデユタカ＋ぽぽ＋α（メインステージ横の会場で描かれた絵です）

山水人村新聞

2009.9.13号

編集発行：山水人史人(やまうとのふひと)

●本紙は山水人2009において毎週日曜日に発行する週刊新聞です。会場内での情報の流れをスムースにして祭りを盛り上げることを目的としています。
●この新聞は会場内にはりだす他にPDFファイルとしてネットからＤＬできるようにする予定です。
●新聞のほかにＨＰ（山水人日記）でも祭りの様子を発信します。

http://yamauto.jugem.jp/

●山水人ファッションショー用など、史人スタッフは会場内で写真を撮らせてもらうことがあります。腕章が目印です。

13日はナナオの日

写真↓は去年の山水人最後の日のナナオの朗読会。

日本のヒッピーの元祖「部族」の最長老にして毎年山水人の常連だったナナオサカキは去年の山水人でも詩の朗読をしたりナナオを囲む座談会で元気に語ってくれました。そのナナオが去年の暮れに突然旅立ち、さみしいことに今年は姿を見ることができません。今年の山水人最終日(13日)はそのナナオをリスペクトして「ナナオの日」とします。
（一部の映画上映は12日の夜を予定）

ナナオに捧げる踊り（古代フラ） am10～

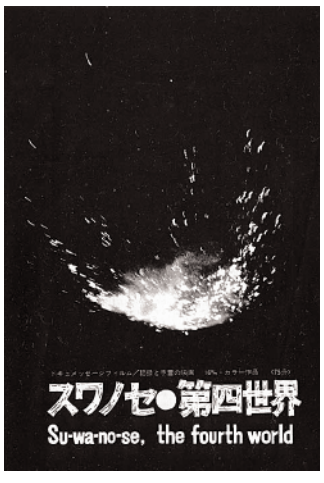
水野みさをさんによる古代フラ（カヒコ）の舞をもってスタートします。
水野さんは以前、ナナオとゲイリーの前でも踊ったことがあるそうで、その同じ舞を舞ってくれます。

座 談 会 am11～

『戦争、ビートニク、ヒッピーそして』

座談会の参加者には、“ポン”山田塊也、内田ボブ、サワ、宮崎さゆり、水野みさを、飯高、祖牛、ヨシダミノルさんらを予定。
去年の山水人の様子を映した映像には、ナナオが戦争体験を語っているシーンなどがありました。そんなナナオの想い出を軸に、それぞれのナナオ体験を話してもらいます。
その後、メインステージではナナオに縁のあったバルナギータ、THE FAMILY、他のミュージシャンが演奏します。

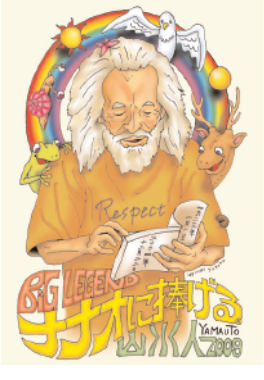
映　画



ナナオが出演している「スワノセ第４世界」をはじめ、去年の山水人の様子を森田くんが撮った「ナナオに会いたい」、部族のことを撮ったＴＶどきゅめんたり一番組「ある青春の砦」「アイアムヒッピー」などを上映します。

展　示

わくせい広場の「山水人美術館」には、ナナオの写真や遺品が展示されています。この機会にぜひご覧下さい。



ナナオステッカー

今年のウピンデユタカさんの山水人ステッカーはナナオステッカーです。１枚￥５００　本部その他で販売しています。売り上げの一部は祭り開催資金となります。

山水人のひとり

山水人のオープニングパーティのＧＯＡＧＩＬが中止となった。それはまるで天災のようであまりにも不用意に、気付いた瞬間に私たちは渦の中に飲み込まれていた。渦の中にいると自分の心を見失うことがある。どれが本当に正しい選択かなんて実際誰も分からなかったりする。自分が正しいと思っていてもそれが全くの勘違いだという場合もある。今回のまつりで、だからこそみんなで話し合うことが本当に大切なのだということを知った。未だ解決出来ていないものも無数にあって、全てはこれからもずっと続いていくであろう“山水人”の課題として正面からみつめ、共に成長していこう。まつりが無事始まり、そして今ゆるやかに終盤を迎えている。先程ステージで周りを見渡したとき、同じ方向へ歩む人たちに囲まれていることに気付いた。なんだかここにいることが本当に幸せで大切で、あぁ生まれてよかったと思った。繋げてくれた“山水人”に、この大地に樹々に水に心から感謝する。(misato)

山水人流生活術

食器洗いは灰で

山水人のＨＰやチラシには、石けん、洗剤、歯磨き粉などを使わないで！と書いてあるが、かわりにどうするかというと‥‥母屋の台所などでは草木を燃やした灰が置いてあって、それで食器類についた油分などをとって水洗いしている。歯磨きには塩を使ってる人もいるし、それぞれ工夫して水源地の水を汚さないようにしよう。またトイレには、使った紙を一緒に捨てないで、別の箱に入れてというお願いが書いてある。それはなぜかというと、生分解性のトイレで紙を一緒にすると分解しにくくなるからだそうだ。

山水人マネーの紹介

今年はゴアギルのだけ、部分的な使用（スタッフのまかない用）だったが、もともと山水人では最初の祭りの時から地域通貨を使おうという話が出ていたそうだ。今年の経験をもとに来年以降はもっと幅広くやれるかも。マネーゲームの果てに経済恐慌が起きてお金が紙くず同然になる（かもしれない）将来の練習としても、お祭りの場で使ってみよう。使ってみると地域通貨って楽しいよ～！

本部カフェのデポジット

お酒類を販売している本部カフェでは、ビールマグをデポジットで販売している。買うときには１杯￥500＋￥200＝￥700を払うが、マグを返すと￥200返してもらえる。つまりは１杯￥500ということになる。デポジット制度はゴミ減量の決め手と言われるシステムだが、日本ではまだごく一部の自治体などで実験的に試行されているにすぎない。

ワークショップ等レポート

・炭焼きワークショップ

地元在住の中根さんの指導で、焼かれた炭の窯だしから火入れまで炭焼きの行程を体験しました。昭和30年代まで、煮炊きから暖房まで火といえば、薪と炭を使っていた暮らし。「金がなくても山にはいり、炭を焼けば食べていける」といわれていたそうです。そんな炭もいまではほとんど使われなくなり、焼く手間がかかるわりに安いので、焼く人もいなくなり、アジアのほかの国から買ったりしている現状です。10種類の木が焼かれた炭。木によって用途が異なり、炭を選別しているとどんどん木への興味がふくらみ、大変面白かった。全部炭を出し終わったあと、窯の中に入ると、ほんのりあったかくて、なつかしい気持ちのする匂いがして、子宮の中のような不思議な包まれた感。中根さんが用意してくださったバーベキューをおなかいっぱいご馳走になり、お持ち帰りに炭のおみやげまでいただきました。

・スタンプラリー

クイズに沿って行った場所でスタンプを押してもらい、６コ集めたら、景品がもらえるラリー。やまうと村の田畑、ダイバダの泉、やまうとティピ、ラジオブース、DJブース、賄い場とやまうとの生活と直結した場所をみんなが体験できるようになっていました。景品は色んなお店からの寄付で、好評でした。

■お金のない日

お金を介さないで、必要なもの興味のあるもの欲しいものを交渉で手に入れる日。
手作りのもの、食べものや飲み物、マッサージなど自分ができることや絵を描くなどの才能を交換しあう。お金という紙っきれの受け渡しで成り立っている普段のお買い物スタイルではなく、欲しいものを手に入れるための工夫を凝らすうちに、その人の中であたらしい才能が生まれ出てくる感じがしました。「こころ」や「気持ち」が行き交って、村に集う人達が互いを知るよいきっかけになりました。夕方から、母屋のまえで「もちより大パーティ」開始。まずは、餅つき！やんややんやのかけ声やミュージックの加勢で次々お餅ができあがり、雑煮、お汁粉、きなこ餅などがやまうとからふるまわれました。色んなご馳走が沢山集まり、自発的な善意の豊かさを満喫した日でした。

↑さをり織りのワークショップ

■電気のない日

・巨大火おこし

←火起こしの準備中

二名さんの音頭で、二手に分かれ棒に巻きつけた綱を押し引きしながら火をおこします。小さな火が着いたら、杉とシダの火口に入れ、振り回して大きな火にしていきます。ガスや電気を使わないで火をみんなの力で手に入れました。

・自転車発電

自転車を漕いで発電し、その電気で音楽を鳴らす。一曲完走すると出店者からのふるまいチャイが飲める。だけど、これがなかなかの強者で、一曲完走した人は五本の指に入るくらいだったのではないかしら。低いベース音になるとぐっとペダルが重くなり、ちょっと集中が途切れるとたちまち止まってしまうのでした。電気を作るってやっぱり大変なこと？

・即興セッション

秋の空といい風景がとても美しいやまうとですが、9月中旬に入ると夜がぐっと冷えはじめました。
ろうそくやランプの明かりが灯る電気のない日。会場の何カ所かでたき火が焚かれ、まわりに人が集ってきます。人が集うと歌や演奏がはじまるのがやまうと祭りの自然。賄いや受付をしていたスタッフがいつの間にやら、素晴らしいシンガーやミュージシャンになっていたりする多彩な才能が花開く場。それはひとつにはみんなよく旅をしているからかもしれません。日本だけに限らず、世界を旅して様々な文化を吸収してきた一人ひとりがそのもてるものをシェアし合い、響きあい磨きあって、新しいこれからの世界を生み出していこうとする心意気にあふれた場。「ありがとう」がいつも響いているそんなやまうとです。

山水人ファッションショー

山水人のようなお祭りには都会では探してもなかなか見つからないような独特の素敵なファッションをした人達がたくさん参加しています。そこで了解を得て撮った写真をＨＰ上でアルバムにして見てもらえるウエブファッションショーを開きます。まだＵＲＬが決まってませんが、http://yamauto.jp/のトップページから見られるようにしますので、後日ご覧下さい。

なお13日（日）までスタッフが撮影していますので、どうぞご協力ください。

山水人2009の感想

＊名前（ニックネーム）／年代／性別／住処／参＝参加者、店＝出店者、出＝出演者

あや　30代　女性　岐阜　参　楽しい新しいことを教えてもらえるのがいい。
ともき　20代　男性　大阪　店　音楽を聴きながら、ゆるい感じでめっちゃ楽しい。
ひろみ　20代　女性　東京　店　関東地方の祭りに比べて、山水人は期間が長い。
家族（子供）連れは少ない感じがする。
おっさん　30代　女性　東京　店　会場が田舎の山の中というのがいい。
ゆたか　30代　男性　石川　店　雰囲気が別格にいい、雨でも楽しい。
あさやん　40代　男性　京都　店　山水人は毎回来ているが、今年が一番いい。こんなに良くなるとは思わなかった。
ゆう　30代　男性　東京　参　初めて参加しましたが最高です。感謝しています。
みちよ　20代　女性　長野　参　学びもあり、遊びもありが良い。
しゅり　30代　女性　埼玉　参　気持ちがいい。
たか　20代　男性　大阪　参　素晴らしい、ゆっくりしている。
じょじょ　20代　男性　和歌山　参　気持ちいいです。
とし　20代　男性　京都　参　楽しい。
あすか　20代　女性　大阪　参　楽しい。
びん　50代　男性　京都　出　最初の回から参加しています。前はふくれあがるだけふくれていたが、今回の問題で淘汰されて、そういうことがあっても来る人達が集まってるから、その分濃くなっていると感じてます。それにみんな慣れてきたというか地についてきた気もします。こういった人里はなれた不便なところでキャンプをすることから日常の暮らしのアイデアを得られるような祭りになってきたように思います。

（以下は田さんのアンケート調査結果より）　＊ス＝スタッフ、協＝協力者

・20代　女性　出　今回は事件後で大変だったと思いますが、祭り自体は最高でした。
・40代　男性　参　30日の朝の朝刊を見て、さんざん悩んだ末、来てよかったと心から思います。2、4、５回目と来たけど、だんだん良くなっている。今年はすごーーーくいい。苦あれば楽ありという感じ。レイブには最初から興味なし。いのちの祭りが起きてきてると思う。スタッフはよくやってる。
・20代　男性　参　ゴアギル中止は正直複雑です。ダメなものはダメだとも思うし、それは一方的な感じもする。近くの村の人やおじいちゃん、おばあちゃんから子どもまで、安全につながった、あたたかい村であってほしい。なので、ダメなものはダメでcleanな場所があり続ける為に、配慮していくことをみんなで話し合って意識を高めあっていければと望みます。
・30代　男性　出　ゴアギル中止は、今の社会を象徴している。無力な市民と強引な権力構造に疑問をかんじる。主催の方々のその時々の気づきや望みをそのつど確認しあって、続けていってほしいし、その継続に関わりつづけたい。トラブルをPositiveに受け取り、前向きにまつり作りに取り組むスタッフと参加者にRESPECT！
・20代　女性　ス　ゴアギル中止について、祖牛さんの決意はかっこよかった。このことで逆にいいおまつりになった。
・20代　女性　参　祭りで学んだことは、人とのつながりを大事にしてゆきたいと。色々な人がいるけど、まずは自分が peaceになろうと思う。
・60代～　男性　協　自然な人と人のちえが造り出してゆく姿がよい。
・30代　男性　参　他の祭りと違う特徴は：みんな笑顔。子どもが多い。これからもずーっと続けていってほしいです。

アンケート調査をやっています

今後の山水人とコミュニティ作りを考える資料としてコミューン座談会に参加した田さんがアンケート調査をしています。
・山水人と他の祭りとの相違点、山水人祭りで学んだこと、山水人祭りに望むこと、などなど。
会場でアンケート用紙をもってまわりますので、ご協力をお願いします。